

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	伊藤ゆうき (いとうゆうき)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科博士後期課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	生理研研究会「インタラクションとレジリエンスの神経ダイナミクス」
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	伊藤ゆうき、巖翔、加藤一聖、大須理英子
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	経皮的脊髄刺激が体性感覚誘発電位に及ぼす影響
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。) 経皮的脊髄電気刺激 (tSCS) は、脊髄損傷リハビリテーションにおける運動機能改善に有効であることが示唆されている。tSCS は運動機能のみならず感覚機能に影響を及ぼす可能性があるが、感覚入力処理に着目した研究は限られている。tSCS による感覚上行経路の即時的な変調や可塑的变化の理解は、脊髄損傷の感覚機能リハビリテーションへの応用に重要である。本研究の目的は、tSCS が体性感覚処理に与える即時的影響を体性感覚誘発電位 (SEP) を指標に検証することである。健常成人 2 名を対象に tSCS 介入前後で右正中神経を電気刺激し SEP を脳波計で記録した。tSCS は 10kHz の高周波 (連続 1ms、刺激強度 3mA、30Hz) を 30 分印加した。結果として、SEP の N20 成分、P 波ピーク成分の振幅が減少した。今後は、頸髄損傷例における臨床の有効性を検証し、tSCS の感覚機能障害における有効性を明らかにしていく。	

※無断転載禁止